


C-6 キャンドルづくり

概要	ろうの性質を利用して色や形を変え、自分なりのキャンドルをつくる活動			
ねらい	自然に親しむ	仲間づくり・協調性	課題克服・達成感	 HP詳細へ
			○	
	歴史文化に親しむ	知識	創意・工夫	
		○	◎	
条件	場所	実習室 等	対象	小学生以上
	時間	およそ2～3時間程度 ※完成までには時間を要します。	人数	40名程度
	時期	通年	天候	全天候実施可能
	料金	パラフィン 1kg 2,400円 (10～15人分) ※ろうを細かくした素材 ロウソクの芯 2.5m 350円 (20～25人分) ※ごみ袋のない団体は、ご購入ください。大(45L)150円・小(30L)100円		
準備物	センターが貸し出しできるもの		団体が準備するもの(共通)	
	<input type="checkbox"/> カセットコンロ <input type="checkbox"/> 鍋 <input type="checkbox"/> お玉 <input type="checkbox"/> カッター <input type="checkbox"/> 千枚通し <input type="checkbox"/> 容器 <input type="checkbox"/> 抜き型 <input type="checkbox"/> はさみ		<input type="checkbox"/> ガスボンベ 軍手 <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> 紙コップなど容器 <input type="checkbox"/> 割りばし <input type="checkbox"/> 着色料(クレヨン、粉絵具等)	
展開	1 事前(当日までの準備) (1) キャンドルのつくり方や活動の流れを確認する。 (2) 材料や用具等の準備をする。			
	2 活動(当日の流れ) (1) 作り方の手順等の説明、諸注意(安全面) → センター職員が行うことができます。 (2) 「キャンドルづくり」の実施(基本的な流れ) → 各団体が行います。 ①パラフィンを湯せんで溶かし、液体にする。 ②液体状のろうに、着色料を混ぜ、色をつける。 ③準備した容器に、割りばしを使って芯をセットする。 ④容器の中に、液体状のろうを流し込む。 ⑤完全に固まるまで、平らなところへ置いておく。 ※どんなキャンドルをつくるのかは指導者にお任せします。容器を工夫したり、色を複数使ったりすれば、オリジナリティを出すことが可能です。事前に研修者に伝え、用意させておくといいです。 ※活動後、「キャンドルのつどい」を開催し、振り返り時に自分で作ったキャンドルを灯す活動も考えられます。			
	3 事後(片付け) (1) 不要なものや用具を片付け、活動場所を清掃する。 (2) お互いの作品を鑑賞し合い、褒め合ったり作品作りについて振り返ったりする。 (3) 用具の返却、終了の報告			
実施の留意点	○ 材料や用具等は、基本的に実施団体でご準備ください。上記、貸出物品については数に限りがありますので、ご相談ください。 ○ カセットコンロを扱います。熱したろうでの火傷等も想定されます。事前指導を行い、安全な実施をお願いします。 ○ 換気も十分に行いながら、活動を実施してください。			

C-6 キャンドル作り資料



〈貸出物品〉

キャンドル用容器:37 缶
 カセットコンロ:18台
 鍋:7 個
 おたま:23 本
 カッター:29本
 千枚通し:6本
 抜き型:各種
 ※貸出数には、限りがございます。



↑抜き型各種

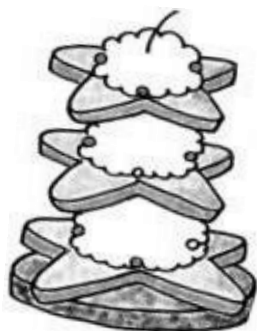
～作品例～



ブロックキャンドル



ケーキキャンドル



キューブキャンドル



ツリーキャンドル

※作成するキャンドルの種類によって、作り方や所要時間、準備物が異なりますので、事前にご相談ください。